

大磯建物語

特別版

# 大磯城山荘

県立大磯城山公園  
(旧三井別邸地区)

じょうやま じょうざんそう  
城山と城山荘



みつい はちろうえもん たかみね  
三井八郎右衛門高棟  
三井総領家第10代当主  
(1857-1948)

大磯城山荘の歴史は、三井十一家の総領家(北家)の当主であった三井八郎右衛門高棟(たかみね)が明治28年(1895)ころに当時の軍医総監であった橋本綱常より城山の土地を購入し、明治31年(1898)に茅葺の別荘を建てたことから始まります。この別荘に皇太子(のちの大正天皇)がお立ち寄りになられたことを記念して「降鶴堂」と命名。その後、さらに隣接地を購入し、昭和10年頃には2万坪余(最終的には3万8千坪)の広大な屋敷となりますが、大正12年(1923)の関東大震災により建物は甚大な被害を受け、昭和3年(1928)に修復されます。高棟は昭和8年(1933)の隠居を機に、たびたび城山荘に滞在するようになり、大磯城山荘本館の新築に着手します。設計は木造耐震建築の研究者で新進気鋭の建築家・久米権九郎に依頼、翌昭和9年(1934)に竣工しました。

城山荘本館の建設以外にも西北山麓に作陶のための陶器細工所潜庵や窯場を設け、北側には大芝生を配した大庭園、大雄殿、法雲堂、洗心寮や多くの堂や門、橋などの造営と庭園整備を行い、その全体がほぼ完成します。  
(右下図:昭和16年当時の様子)



①中門(海会山)

やがて時局が戦時体制となるなか、昭和11年(1936)に国宝建造物の指定を受けた茶室「如庵」は、昭和12年(1937)に今井町本邸(東京麻布)から大磯城山荘へ移築されます。その後、如庵周辺の岩栖門なども移築され、東側山麓の広場に見事な庭園が完成しました。戦後、高棟は昭和23年(1948)91歳で世界しましたが、GHQによる財閥解体政策でほとんどの土地が三井家の手を離れ、昭和45年(1970)に城山荘は名古屋鉄道株式会社の所有となります。如庵といくつかの建造物は移築されますが、多くは解体され、部材として保存されています。その後、城山の土地は放置されていましたが、三井別荘跡地の再利用案として公園化計画が進められ、県立都市公園整備工事が開始します。昭和62年(1987)に一部分を開園し、平成2年(1990)に神奈川県立大磯城山公園として正式に開園しました。園内の施設も当時のイメージを偲ばせるデザインを採用し、観光の名所としての役目を引き継いでいます。



③流雲橋



⑦法雲堂



⑧等持閣



⑨六窓堂



⑩大雄殿

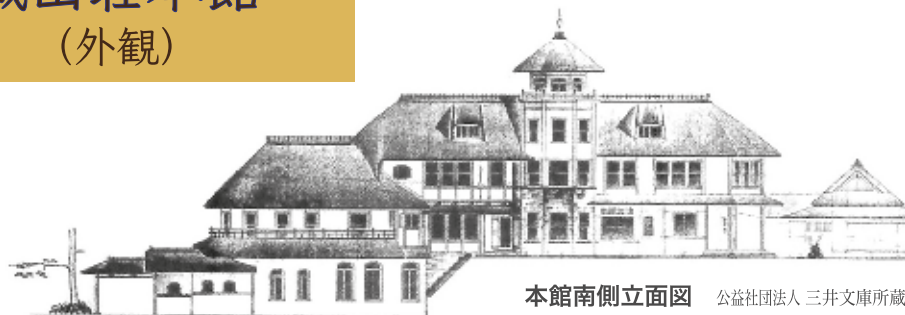


⑭通雲橋





# 城山荘本館 (外観)



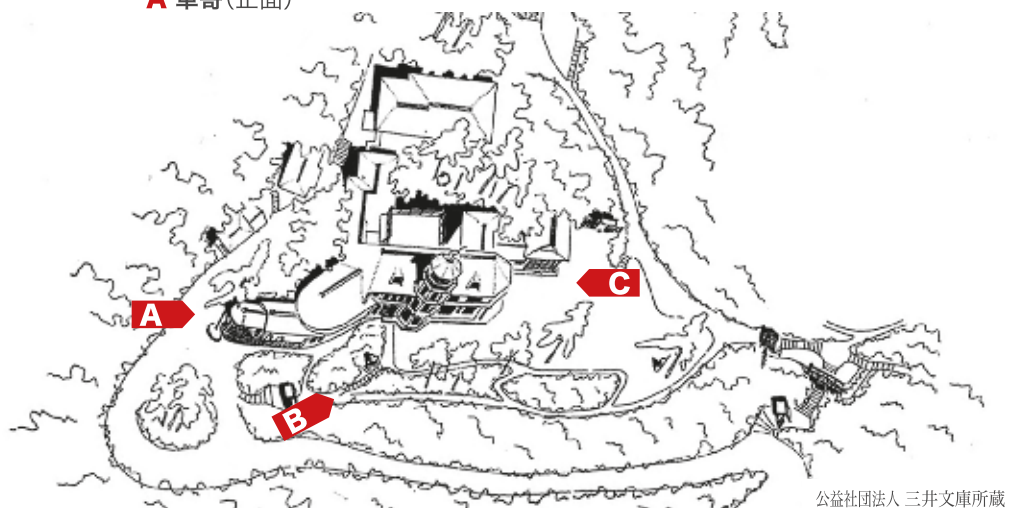
本館南側立面図 公益社団法人 三井文庫所蔵



A 車寄(正面)



B 本館南側(西方より撮影)  
中央の4階建ての塔が「養老閣」



公益社団法人 三井文庫所蔵

城山荘本館は、城山の見晴らしの良い山頂付近(現在の展望台がある場所)に建設されました。建物は茅葺き屋根の地下1階・地上3階で、中央部に4階建ての通称「養老閣」と呼ばれた八角形の塔が組み込まれ、目を引く独特なデザインとなっています。養老閣の屋根には天を仰ぐ鶴の飾りが取り付けられていて、最上階からは眼下に相模湾を一望でき、遠く伊豆・箱根の山々や富士山を望むことができました。

また、玄関(車止)は丘陵の地形を巧みに利用し景観への配慮も兼ねて、一段下がった地階に配置した設計となっているのが特徴です。



C 本館東側と降鶴堂

降鶴堂(右)は、関東大震災で倒壊したため、昭和3年(1928)に修復

くめ こんくろう  
建築家 久米権九郎 (1895-1965)



左より 権九郎、民之助(父)、民十郎(兄)

写真:株式会社 久米設計所蔵

兄・民十郎の学習院高等科の同級で以前より親交のあった高棟の次男・三井高公(たかきみ)が高棟に権九郎を推薦したことで、城山荘の設計を依頼されることとなります。

## ■久米式耐震木構造の戦前の主な作品

三井家葉山別邸	河口湖富士ビューホテル
三井家大磯城山荘	日光金谷ホテル
軽井沢万平ホテル	芦ノ湖畔箱根ホテル
三井家赤倉山荘	ほか個人住宅多数

※このうち日光金谷ホテルと軽井沢万平ホテルが現存しています。



久米式耐震木構造の「金谷ホテル別館」

## ■久米式耐震木構造とは

細い材料をなるべく傷つけず、縦横互いに合理的に組み合わせてボルトで結束し、基礎部から棟部まで家屋全体を一個の籠(かご)状にまとめることで耐震能力を向上させる構造。

久米権九郎は、明治28年(1895)に皇居二重橋の設計者で政治家・実業家の久米民之助の次男として誕生しました。

権九郎が28歳のとき、ドイツの建築関係の大学に留学し、同年に関東大震災が発生。このとき兄・民十郎が滞在していた横浜のホテルの倒壊で亡くなったことを契機に耐震木構造の研究に入ります。卒業論文で日本の木造建築と西洋型合理性を融合させた「久米式耐震木構造」を確立しました。卒業後、昭和4年(1929)に帰国し、渡邊久米建築事務所を設立します。



# 城山荘本館 (内装)

城山荘の大きな特徴は、全国の有名な28社寺から集めた膨大な量の古材を内装などに再利用している点です。

当時、三越呉服店の取締役を務めていて、茶人としても知られていた高橋義雄が、この城山荘を「古材館」と称する新聞記事が掲載されたり、訪問者の多くが「寺のようだった」と感想を述べていることなどから独特な雰囲気の内装デザインであったことがうかがえます。

もともと社寺の部材は、それ自体の個性が強く、圧倒的な存在感があります。それらを組み合わせた内装は、設計を担当した久米権九郎の洗練された内装デザインとはかけ離れたもので一種の骨董博物館のようにも感じられます。

このようなデザインになった背景には、施主の要望をできるだけ取り入れる権九郎の設計姿勢があり、高棟の意向が強く反映されたものと思われる。

## ■城山荘に使われていた古材の社寺一覧

薬師寺  
喜光寺(菅原寺)  
龍門寺  
当麻寺(たいまでら)  
千光寺  
万福寺(雪舟寺)  
元興寺  
東大寺  
教興寺(高安寺)  
長岳寺  
王福寺  
大乘院  
大徳寺(真珠庵)  
観心寺  
高宮寺  
葛井寺(北畠寺)  
龍福寺  
大安寺  
浅草寺  
不退寺  
櫻本坊  
川原寺(弘福寺)  
東福寺  
双林寺  
春日神社  
談山神社(たんざん)  
今宮神社  
率川神社(いさがわ)

奈良県・奈良  
奈良県・奈良  
奈良県・大和  
奈良県・大和  
奈良県・大和  
島根県・石見  
奈良県・奈良  
奈良県・奈良  
大阪府・河内  
奈良県・大和  
大磯町寺坂  
奈良県・奈良  
京都府・京都  
大阪府・河内  
三重県・伊勢  
大阪府・河内  
奈良県・大和  
奈良県・大和  
東京都・浅草  
奈良県・大和  
奈良県・大和  
京都府・京都  
京都府・京都  
奈良県・奈良  
奈良県・大和  
京都府・京都



広間(1階)

柱: 菅原寺金堂の柱  
卓: 浅草寺の大斗(だいと)



広間吹抜部(廻廊)

広間上部は高さ約9mの吹抜で2階部分に廻廊を廻らせている  
シャンデリアは明治6年建設の旧三井銀行3階大広間のものを使用  
\*正面奥の飾部は大磯町郷土資料館にて保管・展示(右写真)



広間吹抜の飾部

唐破風と龍の彫刻の欄間: 龍門寺  
鶴の彫刻: 長岳寺  
龍の彫刻の束: 高宮寺  
現在は失われた斗拱(ときょう): 王福寺



玄関

柱: 葛井寺の奈良古材、浅草寺古材  
入口扉: 高宮寺の扉をそのまま使用  
床: 古材の寄木仕上げ



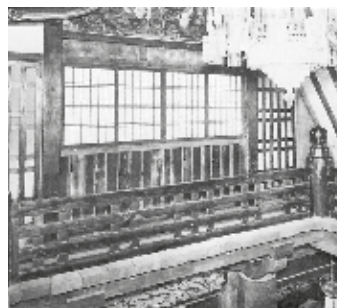
廊下

丸柱: 薬師寺東禅院堂  
天井板・腰羽目板・小梁: 王福寺  
南出入口飾棚板: 薬師寺東塔の野地板



階段広間

階段: 浅草寺本堂正面の階段  
ほか薬師寺、葛井寺、菅原寺の古材



広間吹抜廻廊

棟木: 薬師寺護摩堂小屋材  
垂木・垂木受・腰長押: 菅原寺金堂・護摩堂  
玄関側唐破風: 浅草寺本堂厨子破風  
玄関側懸魚: 東大寺西大門懸魚  
龍彫刻欄間: 龍門寺欄間



養老閣

扉: 櫻本坊の杉戸  
床上部の欄間: 長岳寺  
欄間両脇の狐格子: 菅原寺  
\*楼閣仕様の部屋で左奥扉から東室へ続く



養老閣(最上階展望室)

天井一部: 菅原寺の材  
\*4階は展望室で正面に掲げられた「養老閣」の額は梨本宮守正が揮毫したもの



東室

床の間・書院地板・窓下甲板・書院棚板: 菅原寺の扉の材  
ほか薬師寺、当麻寺、春日神社などの主に奈良県の社寺の古材



東室(天井)

天井板: 菅原寺の杉材  
\*天井の模様は高棟自身が製作、金の模様を施している



東室別間

春日神社、薬師寺、菅原寺の古材使用  
暖炉右の丸柱: 当麻寺の柱  
床の間落し掛: 薬師寺東塔の垂木



じょあん  
(国宝)茶室「如庵」



⑱ 如庵席

城山の東麓、現在の県立大磯城山公園・ふれあいの広場に国宝・茶室「如庵」がありました。如庵は、茶人織田有楽斎(うらくさい)が元和4年(1618)に京都東山の建仁寺に創建された茶室で、明治41年(1908)に北三井家へ売却されます。北三井家では、如庵を東京今井町の本邸に移築しますが、震災や空襲の恐れから昭和12年(1937)に城山荘への移築を開始します。



前年に国宝の指定を受けていた如庵は、移築に際して建物を三分割し、トレーラーで細心の注意を払いながら城山荘まで運ばれました。高棟は若い頃から茶道に造詣が深く、貴重な文化財を守るという使命感から茶事風流を極力控えていたため、昭和3年(1928)如庵での初めての茶会を最後に、以降ここで茶会が開かれることはありませんでした。戦後、城山荘が北三井家の手を離れたのち、如庵は露地・岩柵門・萱門・書院・含翠門・唐門とともに名古屋鉄道(株)により名鉄犬山ホテル・有楽苑(愛知県犬山市)へ移築され、現在その姿を観ることができます。



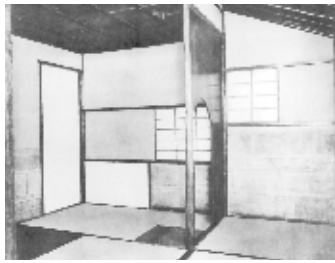
写真：日本庭園・有楽苑

日本庭園・有楽苑(うらくえん)  
〒484-0081 愛知県犬山市御門先1  
名鉄犬山ホテル敷地内  
☎ 0568-61-4608

HP <http://www.m-inuyama-h.co.jp/urakuen/>



日本庭園・有楽苑 提供



⑱ 如庵席(内部)

腰張りに古曆を使用していることから「歴の席」とも称されています。



⑳ 前後軒席

千宗旦(せんのそうたん)により建てられた茶室。

- ① 表門
- ② 中門
- ③ 供待
- ④ 丸木門
- ⑤ 松聲寮
- ⑥ 岩柵門
- ⑦ 書院
- ⑧ 腕木門
- ⑨ 露地口腰掛
- ⑩ 含翠門
- ⑪ 揚賣戸
- ⑫ 如庵待合
- ⑬ 藤村庸軒旧蔵
- ⑭ 藤原藤房旧蔵
- ⑮ 萱門
- ⑯ 井筒
- ⑰ 躰踏
- ⑱ 如庵席
- ⑲ 前後軒待合
- ⑳ 前後軒席
- ㉑ 布袋躰踏
- ㉒ 梅軒門
- ㉓ 中潜り
- ㉔ 大和門
- ㉕ 西門
- ㉖ 片桐門
- ㉗ 唐門
- ㉘ 鳳凰亭
- ㉙ 東門
- ㉚ 竹門



㉖ 片桐門

天正18年(1590)薬師寺の修繕の際、普請奉行・片桐且元が宿営したことにちなむ。慈光院(奈良県)に移築したものを昭和16年に城山荘へ移築。現在はMOA美術館(熱海市)に移築されています。



㉗ 唐門

織田有楽斎の甥信雄(のぶかつ)の菩提寺・徳源寺(奈良県)から移築。如庵と共に移築されています。



⑤ 松聲寮

現在は、広島県竹原市及び滋賀県大津市の覚性律庵に移築されています。



# 神奈川県立 大磯城山公園



～ 旧三井別邸地区 ～

大磯駅からバスで五つ目の「城山公園前」で下車した場所の北側に城山荘はありました。城山荘が売却されたのち土地は放置されていましたが、三井別荘跡地の再利用案として公園化計画が進められ、県立都市公園整備工事が開始します。そして、昭和62年(1987)に部分開園、平成2年(1990)に県立大磯城山公園(旧三井別邸地区)として正式に開園しました。園内の施設も当時を偲ばせるデザインを採用し、観光の名所としてその役目を引き継いでいます。公園(旧三井別邸地区)は、7ha(約21,000坪)の広さがあり、園内への入口は、南門・西門・北門・東門の4箇所、南門に駐車場があります。駐車場から坂を登り、南門を潜ってさらに登ると頂上に展望台が見えてきます。この展望台がかつて「城山荘本館」が建っていた場所です。



小滝ノ滝



茶室「城山庵」



展望台(城山荘本館跡)

北蔵ギャラリー

もみじのライトアップ 11月下旬頃

展望台の屋根は八角形で鶴の飾りがあり、「養老閣」の当時の雰囲気を感じられます。展望台からは相模湾を一望し、晴れた日には伊豆半島・箱根連山や富士山を望むことができます。「養老閣」の展望室は4階ですので、眺望はもっと広がったと思います。

尾根を北に行くと現存している「北蔵」のほか「ひかりの広場」があり、「北蔵」は現在ギャラリーとして利用されています。

ここから西に下ると、「小滝綾ノ滝(こゆるぎのたき)」や北門付近には「不動池」があり、毎年紅葉の時期には幻想的な「もみじのライトアップ」が催されます。このほか四季折々に様々なイベントもあり、ホームページ等でチェックしてみてください。

西門の近くには、国宝の茶室「如庵」を模した茶室「城山庵」がありますので、お抹茶をいただきながら侘び・寂びの世界を味わってみませんか。

お問合せ 公益財団法人 神奈川県公園協会 管理事務所  
大磯町西小磯551-1 ☎0463-61-0355

HP <http://www.kanagawa-park.or.jp/ooisojoyama/>

開場時間 9:00～17:00

入園料 無料

休園日 年末年始(12月29日～1月3日)

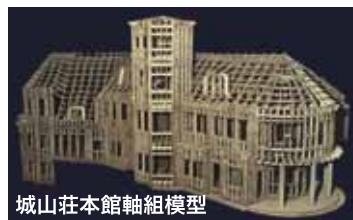
駐車場 第1駐車場(30台)、第2駐車場(19台)

旧吉田茂邸地区駐車場(26台)



大磯町郷土資料館

国宝「如庵」があった東側山麓の「ふれあいの広場」には、城山荘本館をイメージしたデザインで建てられた「大磯町郷土資料館」があります。久米権九郎の造った耐震検討用の城山荘本館軸組模型や広間吹抜の飾部など城山荘にまつわる品々が展示されているほか、横穴墓を再現したものや縄文・弥生土器、相模国府時代の遺物、海水浴場と別荘、大磯の祭なども多数展示されています。



城山荘本館軸組模型

## ■資料・写真等の提供協力(順不同・敬称略)

大磯町(都市計画課)、大磯町郷土資料館株式会社 久米設計、公益財団法人 三井文庫 公益財団法人 神奈川県公園協会 公益社団法人 大磯町観光協会 NPO法人 大磯ガイド協会

お問合せ 大磯町郷土資料館  
大磯町西小磯446-1 ☎0463-61-4700

HP <http://www.town.oiso.kanagawa.jp/oisomuseum/>

開場時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料 無料

休館日 毎月1日、月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)



## ■制作にあたって

「大磯建物語」シリーズは、本来現存する建物を対象としておりますが、三井高棟の城山荘建設にかけた思いや時代背景など、ここを訪れる方に少しでもご紹介できればと考え、今はなき城山荘を特別版として制作することにしました。

冊子の制作・編集には、大磯町郷土資料館発行の書籍「大磯別邸 城山荘 ー三井高棟が遺したものー」を参考にしています。なお、掲載写真や図面・説明等には、企業、団体及び関係者のご理解ご協力いただき深く感謝申し上げます。

さらに詳しい内容をお知りになりたい方は、大磯町郷土資料館見学の際に、この書籍を購入されるか閲覧されることをお勧めします。

## 【参考文献】

大磯別邸 城山荘  
ー三井高棟が遺したものー  
(編集)大磯町郷土資料館 (A4・48頁)  
(発行)2017年10月21日

\*大磯町郷土資料館にて販売されています



## ■アクセス

JR大磯駅前より神奈中バス「城山公園前」下車徒歩1分



バス系統(大磯駅前)  
磯07 大磯プリンスホテル行  
磯13 西公園前行  
磯14 二宮駅北口行  
平47 二宮駅南口行  
※季節限定運行や催事等により運行が変更になる場合があります。

大磯建物語【特別版】「大磯城山荘」(旧三井別邸)  
2018年3月 初版発行

編集・発行 大磯まちづくり会議  
〒259-0102 神奈川県中郡大磯町生沢969-3  
(株)アスデザインアソシエイツ内  
☎0463(73)2002  
✉oiso.machidukuri@gmail.com

大磯建物語

## 大磯城山荘

県立大磯城山公園(旧三井別邸地区)



発行

大磯まちづくり会議